



新柳髮話  
浮世床

初編

二

號	二	第
一組	至	自
四	四	一
冊	卷	卷
		十
		冊

14  
3157  
42(2)



















御膳入トリヤ。早うしもの可入りて連てませう。おらうが  
 元の惣花申とも三十六文でもむしりてお出なす候  
 せんの花ハ四文花子トナリ。隠居さんが能く曲りん花  
 へ三文を十文買つて四文花七文き風ど「コレはう  
 悪くちあめりもでもむしりてはな切きくくん染るよ。  
 今年も本堂の家根が痛入どうり。檀方中ととらう効  
 化へよとこ「あめりさんハあめりごどうりで金ハ出さごど  
 らう「それぞ遠知さるりの。あれが瑞梅で付てんせ後入  
 ぢやアしう後入りさ「瑞梅ぢやア後入瑞梅のど「コレ正金で  
 七両二分とらうん「それぢやア密まご「うんでも能おれ  
 一人とちてくれと婆どのが先入ひきお世話も成居候ら  
 「モシ婆さん申なると亡と跡の力もあやとあ入「それ  
 年老てん後入ぢやア公のらがるる久人候てんでも思  
 どののを「それぢやア時ぐおひ出「はさるざらう子「あひ  
 ちいとも其のまじりサ。あらうが息子を産うごらん。お上下や帽子

らう「それぞ遠知さるりの。あれが瑞梅で付てんせ後入  
 ぢやアしう後入りさ「瑞梅ぢやア後入瑞梅のど「コレ正金で  
 七両二分とらうん「それぢやア密まご「うんでも能おれ  
 一人とちてくれと婆どのが先入ひきお世話も成居候ら  
 「モシ婆さん申なると亡と跡の力もあやとあ入「それ  
 年老てん後入ぢやア公のらがるる久人候てんでも思  
 どののを「それぢやア時ぐおひ出「はさるざらう子「あひ  
 ちいとも其のまじりサ。あらうが息子を産うごらん。お上下や帽子





お徳ふ完に能く流へるべし。傳ぐ天宮も凸凹乃  
 ある。いれ入すしの形ごとく。志んこよりの罪が軽い。輕なる  
 志ん後人が極度其の罪が重くと入せ。こいんさん。新刀の巻  
 後へいれあつて。名亦旧跡ある。二十四巻の。とらじが  
 天宮アあると。とらじが。海にせ。とらじが。とらじが。  
 たましく云や。のんな癡とぬる。は旧跡。とらじが。  
 揚弓。ゆちやアめん。とらじが。とらじが。とらじが。  
 とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。  
 とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。

山王は宗一馬席ア云や。まの。とらじが。とらじが。  
 構後山王。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。  
 壺ア。南を河。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。  
 後人。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。  
 て死。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。  
 そのつを牛車。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。  
 赤。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。  
 そり。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。とらじが。

カ

手本あてで楽博とやらがして是のうに遊んでおるやうに  
 ホニヨ。今更ら遺言あてで重なるまじく遊んでおるやうに  
 多付ア。てあ人の面で幽霊のまじく遊んでおるやうに  
 極よ好男であつちやアを人様へ「チヨウ。あんでもけら付ど  
 そんあうは方が後化物で出て早ぐらしてうと能野暮ら  
 化物よあて出りやア相根くら先ご「西冷江戸ッ子あやア  
 取付後ス。一あんの江戸ッ子あぶひぢエ。そんな野郎がある  
 うら江戸ッ子の評判記が悪いト入るのうにまじく遊んでおるやうに  
 ありあつちやアを人様へ「チヨウ。あんでもけら付ど

口をせある「サア」敵の大軍とあつてあつて「其時終せん  
 中も騒ぐとサ「あんのだじも後くせお  
 ぎせるを「下俗のガ語」あでも四文とあつてあつて「不便と「ユウ  
 ぐんぶとあつちやアを人様へ「チヨウ。あんでもけら付ど  
 畧儀「やあ履儀」あつちやアを人様へ「チヨウ。あんでもけら付ど  
 ああねがらんせとあつちやアを人様へ「チヨウ。あんでもけら付ど  
 高がまき分り「ふぶ身」あつちやアを人様へ「チヨウ。あんでもけら付ど  
 えせとあつちやアを人様へ「チヨウ。あんでもけら付ど

の此誕生きかんと寄れり江戶櫻の三の朝三馬が所乃  
 江戸のあまを毒ゆふ浴て今村松本のとれ松本行玉をの  
 紅とこきすまを磨り上る色男「コウキヤ。どう志づく。  
 悪の耐きまう遠くせ町内の厄介者として候とらう。  
 声色々の「ぢら色でらう今流行後人の「そ程めく。  
 派之松助まらひひらに免と誤る色男「「まめ人の  
 面とえちや誰でもまの平ご「めんまの女がらうさくしてま  
 後から女人禁制の札と出せばりりごうごう「トのらう

「此男かきこき用「ナサれを牛こよりのまの「ハ  
 色男あ何がある「「志免こ面あ態がうる「ハ小まの  
 せらら木を足とるる。華中の大衆よけの海遊のそ「態を  
 四百で遊る「鶏を割くふるんぞトしりしうら又一人とすの  
 誰ごく。古風なるものさる「ゆえんこんさくし「あひや  
 ねん後人「ゆえんさる「甲がらうのさる  
 「待てく指でまねるア「ナダ。小指子敷の丸は膏  
 茶を注ぐ店女ごナ魚版子中「んせご中ごうん。ア























坊さるまじく  
大まき声で  
「どうぞお福がアア」  
「拵八びらう  
とほい。」「ホイ。

己剎の鐘声  
ゴラン

正史  
いろは文庫

為永春水作  
溪齋英泉画

瑠理  
由縁乃朝顔

為永春水作  
溪齋英泉画

柳髪新話浮世床初編卷之二終

と今もあつらんぞ残念。さぞほろけぬうさも  
揃もたまぬ。トトリひまのさあらの  
火玉はひまのよき落き  
と揃もあつらんぞ残念。さぞほろけぬうさも  
揃もたまぬ。トトリひまのさあらの  
火玉はひまのよき落き  
と揃もあつらんぞ残念。さぞほろけぬうさも  
揃もたまぬ。トトリひまのさあらの  
火玉はひまのよき落き

柳髪新話浮世床初編卷之二 畢



